

基本操作

本機は半複信中継器または無線機（トランシーバー）としてもお使いになれます。それ以外の詳細は本機背面のQRコードを読み取って開ける詳細説明書に記載しています。同じ説明書を以下のリンク先に掲載しています。

https://www.alinco.co.jp/「製品情報 > 通信技術 > ダウンロード > 特定小電力無線機」

キー操作

「キーを押す」はしっかり押した後、すぐに離すことを指します。
「キーを長押し」は約2秒間押し続けることを指します。

電源を入れる

電源スイッチはありません。ACアダプターを電源端子とAC100Vコンセントに接続すると電源が入ります。電源を入れた後、約10秒間はリモコン設定モードで待受けます。そのまま待つかディスプレイに「rEmCon」表示中にPTTキーを押すと設定モードが解除され、前回終了時の状態で起動します。

音量を調整する

受信・待受け時に△/マキーを押すと30段階の調整ができます。押し続けると連続して切替わります。初期状態は0で音は一切しません。設定操作中は音量を上げてください。説明文中のビーブ音等が聞こえません。設定後は用途に応じて音量設定してください。（通話音をモニターしないときは0）

通話モード

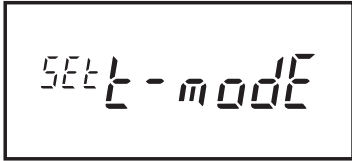
通話モード	チャンネル	番号
半複信中継器	L10～L18、b12～b29（27チャンネル）	r1（初期設定）
交互通話	L01～L09、b01～b11（20チャンネル）	1
半複信中継子機	L10～L18、b12～b29（27チャンネル）	5
デュアルオペレーション	L01～b11、L10～b29（47チャンネル）	7
最適チャンネルサーチ	L01～b11、L10～b29（47チャンネル）	8

デュアルオペレーションと最適チャンネルの詳細説明は弊社ホームページをご覧ください。

https://www.alinco.co.jp/「製品情報 > 通信技術 > ダウンロード > 特定小電力無線機」

通話モード設定

SETキー押しながら電源を入れるたびにディスプレイに「SEt t-modE」が表示され、△キーとマキーで通話モードを切替えられます。PTTキーを押して設定したいモードを選んでください。



半複信中継器と子機の設定と操作

本機には手動のほかに、設定済の子機があればその信号を検知して自動設定するACSHを使用して、簡単にチャンネルとグルーブトーク番号を設定できます。

チャンネルとグルーブトーク番号の設定

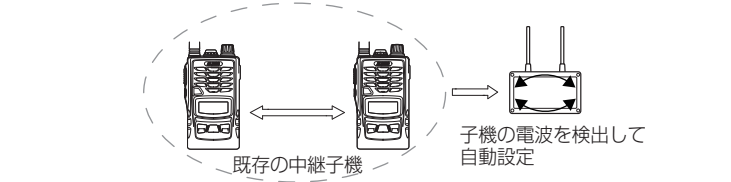
すべての中継器・子機を同じチャンネルとグルーブトーク番号に合わせます。グルーブトークは番号が合致しない別ユーザーの信号を中継させない機能です。01番と50番は多用されるので避けてください。



- ①電源を入れ、待受け状態にします。
- ②SETキーを押しながら△キーまたはマキーを押すとチャンネルが選択できます。L10は多用され混信しやすいので別の番号をお勧めします。
- ③SETキーを押します。チャンネル番号の後にー01が表示されます。FUNCキーを押しながら△キーまたはマキーを押して番号01～50を選択します。何もしなくても、指を離すと設定が完了します。設定後は後述のキーロックを掛けてください。

ACSH（アクシュ）モード

半複信中継用子機があれば本機のチャンネルとグルーブトークを自動設定できます。既存の中継器の入れ替え以外に、新規で設置するときも子機を1台作ればACSHさせることができます。



注意

- ・自動設定中は電源を切らないでください。電源を切ると自動設定せずに停止します。
- ・ACSHモードを起動し本機が電波を検出しているときは、子機側のマイクから音が入らないようにご注意ください。電波が乱されて正常に判定できないことがあります。
- ・弊社製も含む多機能機種には一部中継周波数帯の切替ができるものがありますが、信号例は割り当てられていることは分かります。拡張設定も含めてリセットできます。（ハウリング防止）

注意

- ・グループ番号の検出時、トーン周波数が近いものは動作が不安定になったり、誤判定することがあります。（例：01番 67Hz、39番 69.3Hz）数回試してみても誤判定する場合は、グループ番号を01～38番の範囲に設定してご使用ください。
- ・自動設定後は簡易キーロックがかかり、各種キー操作でのチャンネルやグループの変更はできません。変更する場合は簡易キーロックを外し、手動設定を行うか、後述のリセットをしてください。その場合自動設定した内容は消去されますので、ご注意ください。

- ① 子機側の説明書を読んで中継チャンネルとグループ番号を設定した子機を1台作ります。弊社製でモード番号設定があるものは子機の通話モードを「3A」にします。
- ② 準備ができたらSETキーを押し続けながら、ACアダプターを接続し電源供給します。いったん電源が入りますが、SETキーを離さずにそのまま7秒間押し続けます。
- ③ ディスプレイに「ACSH」表示が点滅し「ピピピピピ」と音が鳴ったらSETキーを離して、子機側の送信（PTT）キーを押します。
- ④ PTTキーを押したまましばらく待ちます。（最長2分程度）子機の信号を検知すると「ビピ」音が鳴り、ランプが緑色点灯します。設定が終わると「oooACSH」と表示し「ブルル」音が鳴り自動で再起動します。
- ⑤ 起動後は簡易キーロックがかかります。次の動作確認をしてください。

【動作確認】

正確な動作確認は2台の設定済子機と使用者2名で行います。2台で異常がなければ、他の子機も同様に動作確認してから運用してください。

- ①イヤホンマイクを装着する、ボリュームを上げるなど運用状態にした子機の電源を入れます。一人は少なくとも中継器から10m以上離れます。電波障害で通話しにくくなる場合があります。
- ②一人が子機のPTTキーを押したままにして送信します。弊社製であれば1秒ほどすると子機がビピと鳴ります。中継器へのアクセスができた合図ですからマイクに向かって「ただいまテスト中」のように話します。
- ③中継器はボリュームを上げていればビピ音が鳴り、受信中の音声聞こえます。中継中はランプが赤色に点灯し、送受のアイコンが表示されます。
- ④別の子機は送信中の信号を受信して相手の声が聞こえます。
- ⑤送信している人は「テスト終了」のような合図を送り通話を止め、PTTキーを離します。信号が途切れてすぐ、もう一人がPTTキーを押して応答するとビピ音は鳴らず、すぐに通話できます。しばらく経ってから送信するとアクセス確認のビピ音が鳴ってから中継します。ビピ音を待たずに話し出すと通話の初めが途切れて聞こえるので一呼吸置いてから話しをするよう心掛けてください。

半複信中継器について

直接では電波の届かない相手と通話するときのモードです。対応する子機が必要です。本機は1台だけ使います。通話モード番号r1b、チャンネルとグルーブトーク番号は子機と同じに合わせます。他社製の子機は下記の理由でお使いになれないことがあります。

注意

- ・中継動作のタイミングが異なるなど、設計上の違いがあります。同時・交互無線連結の中継はできません。
- ・中継CHは送信専用と受信専用の2つの周波数のペアで構成されています。弊社では子機の送信をA側、中継器の送信をb側に割り当てています。

交互通話について

別のトランシーバーと直接通話するモードです。通話モード番号1、チャンネルとグルーブトーク番号は通話相手と同じに合わせます。

半複信中継器子機について

中継器にアクセスして子機として通話するトランシーバーモードです。通話モード番号5A、チャンネルとグルーブトーク番号は通話相手と同じに合わせます。

送信・受信

本機は中継器モードでもトランシーバーと同様に送受信できます。ランプが青色灯時、PTTキーを押したままマイクに向かって話します。ディスプレイに**送**が表示されランプが赤色点灯します。キーを離すと待受けに戻ります。交互通話トランシーバーと同様の操作です。中継送信中（**送受**表示、ランプ赤色点灯）にPTTキーを押すと、中継中の音声に割り込んで送信できます。受信側は2人の声が混じって聞こえますが、送信例は割り込まれていることは分かります。拡張設定も含めてリセット中は、中継中の音声は聞こえません。（ハウリング防止）

半複信中継子機モードで受信（**受**表示、ランプ緑色点灯）時は送信できません。受信終了時の「ザッ」音を低減するテールノイズキャンセラーを採用しています。弊社製の対応機間での通話時に有効です。オプションのスピーカーマイクはオプション端子に接続した後、しっかりと奥までねじ込んでください。マイクのPTTキーを押して送信できます。

呼出音（コールトーン）

送信中に△/マキーを押すと呼出音を鳴らして相手の注意を引くことができます。

キーロック操作

設定が終わり、運用状態になったら設置の前に必ずキーロックを掛けてください。誤操作を防止します。



【簡易】第三者が触れない場所に設置するときに推奨

FUNCキーを長押しすると「LoC-1」が点滅した後「**0**」が点灯します。同じ操作で解除できます。ACSHモードではこれが自動設定されます。

【通常】第三者が触れる可能性があるときに推奨（解除されにくい）FUNCキーとSETキーを同時に長押しすると「LoC-2」が点滅した後「**0**」が点灯します。同じ操作で解除できます。

ACSHしたときは前項の操作で先に簡易キーロックを解除してください。

セットモード

中継器モードと無線機（トランシーバー）モード用のセットモードが2つあり、通話モードの設定により表示される項目が変わります。

- ①キーロックがかかっていれば解除してください。
- ②FUNCキーを押したまま素早くSETキーを押し、すぐに指を離します。
- ③ディスプレイにローマ字表記が表示したら、セットモードに入っています。
- ④SETキーを押すと次項目へ、FUNCキーを押すと前項目へ移ります。
- ⑤△キーやマキーで設定値を変更できます。
- ⑥PTTキーを押すと設定値を確定し、受信待受けに戻ります。

注意 FUNCキーだけを押し続けているとキーロックがかかるのでご注意ください。キーロックは同様の操作で解除できます。

セットモードの詳細説明は弊社ホームページをご覧ください。

https://www.alinco.co.jp/「製品情報 > 通信技術 > ダウンロード > 特定小電力無線機」

種別	セットモード	機能	項目	初期値
中継器	b rPt-CH	中継親機チャンネル周波数帯	b/A	b
	oFF ALm	中継アラーム	on/oFF	oFF
	O HunGuP	中継ハングアップ	O/O5/1/2	O
	on2 Auto	中継自動接続手順	oFF/on1/on2	on2
	A Unt-CH	中継子機チャンネル周波数帯	A/b	A
無線機	oFF ComPnd	コンバンダー	on/oFF	oFF
	oFF ScrblE	秘話	on/oFF	oFF
	oFF bEEL	ベル	on/oFF	oFF
	5 LAmP	ランプ	oFF/5/on	5
	on Led	LED	on/oFF	on
	oFF PttHLd	PTTホールド	on/oFF	oFF
	Pow-At	送信出力	Hi/Lo	Hi
	oFF vo	VOX	oFF/Lo/Hi	oFF
	3 Sd-vol	操作音量	O～5	3
	on Sound	サウンド	on/oFF	on
	oFF EndP	エンドビー	oFF/on/PP	oFF
	on Ptt	PTTオフ	on/oFF	on
	oFF CALLb	コールバック	on/oFF	oFF
	ACH Set-bt	SETキー割り当て	ACH/bCH/EG/Scn	ACH
	EvoL-L	外部音量変更	L/H	L

減電池お知らせ

停電時のバッテリーバック運用中にバッテリーの電圧が低下するとランプが青色点滅してお知らせします。AC電源が復旧していないときはスเปアのバッテリーパックに交換してください。

リセット（初期化）

電源端子に接続したプラグを外し、FUNCキーを押したまま再接続します。電源が入り、ディスプレイが全点灯し初期化されます。完全に初期化する場合はFUNCキー、△キー、マキーを押したまま電源を入れます。拡張設定も含めてリセットできます。



故障とお考えになる前に

症状	原因	処置
電源が入らない	電源が供給されていない	ACアダプターを正しく接続してください
中継器の通話ができない	設定モードに入っている	電源供給後約10秒ほど待ってからお使いください。
	設置場所が適切でない	注意点を確認の上、適切に設置してください
	各機器の通信距離が離れている	電波が届く距離に設置してください
音が出ない	音量が低すぎる	適切な音量にしてください
受信できない	相手とチャンネルが違う	同じチャンネルにしてください
	相手とグループ番号が違う	同じグループ番号にしてください
	相手と距離が離れている	通信距離を目安に送信してください
送信できない	電波を受信している	電波がなくなってから送信してください
	3分通信制限を超過している	PTTキーを放して2秒経過後に送信してください
充電できない	端子が汚れている	端子の汚れをふき取ってください
	充電池が劣化している	新しい充電池に交換してください

充電池の残りが少ないと誤動作することがあります。その場合は電源端子のプラグを再接続するか充電してください。本機を分解すると技術基準適合から外れ、それを使うと不法無線局となり処罰されます。メンテナンスや修理は販売店か弊社サービスセンターにご相談ください。

生産終了品に対する保守年限

生産終了後も5年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

オプション一覧

EBP-60	リチウムイオンバッテリー（3.7V/1200mAh）
EDC-122	ACアダプター（付属品のスぺア）
EME-32A	防水ジャック式 イヤホンマイク カナル型
EME-48A	防水ジャック式 イヤホンマイク 耳かけ型
EMS-62	防水ジャック式 スピーカーマイク
EME-64A	ねじ込み式 ヘッドセット

※ブラケット類のスぺアは販売店または弊社にご相談ください。

定格

送受信周波数 (A)(b)は 中継CHの送信 周波数	Lチャンネル	421.8125～421.9125MHz (b)
		422.2000～422.3000MHz
		440.2625～440.3625MHz (A)
	bチャンネル	421.5750～421.7875MHz (b)
		422.0500～422.1750MHz
		440.0250～440.2375MHz (A)
制御チャンネル	422.1875MHz、421.8000MHz、440.2500MHz	
電波型式	F3E (FM) 、F1D (FSK)	
送信出力	10mW、1mW	
受信感度	－14dBu (12dB SINAD)	
音声出力	3W以上（本体スピーカ：4Ω）/400mW以上（外部出力）	
通信方式	単信、半複信	
定格電圧	DC 6.0V (DC IN) / 3.7V (Li-ion)	
消費電流	送信時：75mA (High) 、65mA (Low) 受信最大出力時：1.5A 受信待ち受け時：83mA バッテリーセーブ時：28mA	
動作温度範囲	－10℃～＋50℃（充電：0℃～＋45℃）	
寸法	高さ94.5mm×幅200mm×厚さ50.4mm（突起物除く）	
重さ	約352g（ACアダプター除く）	

・仕様、定格は予告なく変更する場合があります。本書の説明用イラストは実物とは字体や形状が異なったり、一部の表示を省略している場合があります。本書の内容を無断転載することは禁止されています。乱丁、落丁はお取り替えいたします。

メンテナンス

本体は家電清掃用ブラシなどでほこりを落とし、清潔な布で乾拭きしてください。ACアダプターのケーブルやブラケットなど樹脂類は劣化したら新品に交換してください。ショートによる火災や落下事故の原因となります。本体を分解しないで交換できる部品は販売店にご注文ください。アルインコインカムショップでも承ります。https://alinco-incom.com/